

「私も地球の仲間」

北村 久枝

世界を襲ったパンデミックで、海外旅行どころか県外へ出ることも躊躇して外出を控えていた数年、年末年始神仏に「どうか家族みんなが健康でいられますように」と祈る私の初夢に、亡くなった母が現れ「祈るばかりではなく、自分でも運動をして健康的に過ごさない」と言いました。

その言葉が忘れられないまま庭に出ると、まだ堅い花芽の梅の木にメジロが来ていました。「よし、野鳥を探しながらウォーキングをして健康になろう」と心に浮かんできたのが、私の野鳥観察のきっかけです。

さっそくインターネットで、野鳥観察に必要なという安い双眼鏡と、記録用に1万円少しの中古のコンパクトカメラを購入しました。毎朝それらを持って近所の公園を散歩すると、身近にこんなに多種類の野鳥がいたのかと驚かされました。

小さな猛禽のモズのかわいさ、小さなキツキのコゲラのたくましく木を叩く音、シジュウカラやヤマガラ的大胆さ、田んぼ脇の電柱に飄々と留まっているノスリなど、毎日興奮しながら、今まで知らなかった野鳥との出会いに心躍らせました。

週末は、さらに多くの種類の野鳥を見てみたいと山や林に入るようになり、野鳥だけではなく、リス、熊、兎等々、県内には野生動物がこんなにも豊富に生存しているのかと驚きました。それと同時に、自然界の中の不法投棄の多さにも驚きました。至る所に家電ゴミや農機具や廃タイヤが投棄されています。また、以前は集落であったであろう廃墟の寂しさ、田舎の財政が困窮していることも、いつまでも修復されない遊歩道が物語ります。

まさに「野鳥も人も地球の仲間」です。野鳥観察を通して新しい疑問や考えるべき事が現れます。

環境問題、少子化問題や財政の問題、野鳥の渡りの変化は温暖化が影響しているのでしょうか。再生可能エネルギーは何を使うのが最適なのか等々、感じて考え答えを探しながら、こ

れからも元気に野鳥を含む地球の仲間達と出会っていきたいです。



ニホンリス



ニホンノウサギ

新入会員のお知らせ

大倉昌子さんが鳥仲間となりました。よろしくお願いします。

会員数 149 名 (2025 年 1 月末日現在)

支部日誌

● 2025 年 1 月 18 日 (土) 18:00 ~

姑娘飯店において郡山支部新年会が行われ、21 名が参加した。(新年会の様子は 6 ページに記載)

● 2025 年 2 月 16 日 (日) 13:00 ~

郡山支部運営委員会が行われ、ラムサール条約登録講演会の決算について報告された。また、現在の組織運営の問題と次年度に向けた組織のあり方、事業計画、役員改選について協議を行った。